

2013年12月4日

平成25年度博物館学芸員専門講座「ニーズを創出する博物館」

@国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

蔵屋美香（東京国立近代美術館 美術課長）

コレクションを活かす展示を作るための、ほんの少しのあたまの体操

■東京国立近代美術館（本館）の紹介

■コレクションの成り立ち

- ・現在約12,500点
- ・分類：絵画（洋画・日本画）／版画／水彩・素描／彫刻・立体造形／映像／写真／資料
- ・成立の経緯：1952年12月1日創立 初代次長今泉篤男
近代美術＝明治以降の美術の歴史を語るのか、近代美術＝モダン・アートを紹介するのか
- ・展示：MOMAT コレクション 4-2階 約3,000㎡ 年4-5回展示替 年約800点展示
構成：1) 通史展示（4-2階、1900年頃～現在までのたて軸）
例「何かが起こってる：1907-1945の軌跡」（2013年10月22日 - 2014年1月13日）
2) テーマ展示（2階ギャラリー4小企画 輪切りのよこ軸）
例「路上」（2011年5月17日-7月31日）

■「アーカイヴ」と比べてみる

- ・限定的な枠組みに則った非選択的な収蔵（アーカイヴ）
 - ・非限定的な枠組みに則った選択的な収蔵（ミュージアム）
- ただし「アーカイヴ」という比喻（＝特定の展示テーマや個々の館という仮説的な枠組み）で考えると、ミュージアムにある「欠如」が明らかになる。
- 新規収蔵、分類外の財産の発見（分類外の資料、ライブラリ所蔵の図書や案内状、文書）など

■「デジタルデータベース」と比べてみる

- ・アクセス度の高さ／限定的な情報の伝達（DDB）
 - ・アクセスの限定性／多面的な情報の伝達（ミュージアム）
- DDBの持つ検索機能が展示の発想を変化させる（アンドレ・マルロー「壁のない美術館」）

■「ツワネ原則」のアイデアを使って収蔵品公開の問題を考えてみる

- ・収蔵品はしまえばなしではない。
 - ・今展示できないなら、非公開の期限や公開可能性を知るための手続きを定める。
- 「戦争記録画」の問題：1970年、154点がアメリカより永久貸与の形で返還される。

東京国立近代美術館HP：<http://www.momat.go.jp/>